モンゴル

2014 年のモンゴル経済は引き続き成長速度の低下を見せた。鉱工業生産額は低下を続けており、インフレ率は２桁が続いている。労働市場は悪い状況が続いており、貿易収支の黒字化にも関わらず、通貨の減価は継続している。

マクロ経済指標

2014 年の実質 GDP 成長率は 7.8％で、第３、第４四半期の高い伸びにもかかわらず前年の 11.7％を下回った。第３四半期の伸び率は対前年同期比で 9.7％、第４四半期は同 9.9％であった。鉱業生産と鉱業品の輸出の伸びがこの成長を支えた。2014 年の鉱業生産額の伸びは 24.2％、輸出額の伸びは 37.1％であった。第４四半期には５年ぶりに貿易収支が黒字となった。しかし、最終消費は対前期比で第３四半期に 10.8％、第４四半期に 6.5％それぞれ低下している。最終消費は 2014 年に 8.6％となり、これは 17.5％の最高の経済成長率を記録した 2011 年以降、最低であった。家計消費は第４四半期に前期比 16.2％減となった。この傾向は為替レートの減価により、多くの部分が輸入によって賄われている食品やその他の消費財の価格が上昇したためとみられる。

消費者物価上昇率は、2014 年第３四半期に前年同期比 13.9％、第４四半期に同 11.5％と２桁の状況が続いている。通信を除く消費者物価を構成するすべての品目で価格が上昇している。消費者物価上昇率は 2015 年１月にはやや低下し、対前年同月比で 9.8％となったが、対前月比では 0.7％のプラスとなっている。

対米国ドル平均為替レートは減価を続けており、2014 年 12 月には１ドル＝1,883 トゥグルグとなった。2015 年１月には同 1,933 トゥグルグで、前年同期比 12.7％の減価であった。貿易収支の黒字化にもかかわらず、2014 年の経常収支は 9.8 億ドルの赤字であり、これが減価の要因となった。

鉱工業生産額の増加率は、2014 年 12 月には前年同月比 10.2％となり、うち鉱業は同 13.1％、製造業は同 2.4％、公益事業は同 8.4％となった。しかし 2014 年の増加率は 4.6％にとどまった。2015 年１月の鉱工業生産額の増加率は前年同月比 4.4％、うち鉱業は同 3.3％、製造業は同 7.1％となった。

2014 年末の登録失業者数は 36,970 人で、前年末を 13.6％下回った。2015 年１月の登録失業者数は 35,768 人に低下している。しかし失業率は 2014 年第３四半期の 6.4％から、第４四半期には 7.7％に上昇している。失業率は地域別では東部地域、中央地域、西部地域で全国平均を上回り、首都ウランバートルとカーンガイ地域で全国平均を下回っている。2014 年の新規登録失業者は前年とほぼ同じ 109,742 人であった。しかし、そのうち職を見つけた人の数は 27,399 人にとどまり、前年の 65,874 人の半分以下となった。こうした労働市場の停滞は、特に鉱業部門を除く国内経済の不振を反映したものである。

サービス部門の生産額の伸びは 2013 年の 6.8％から 2014 年には 4.8％に低下した。粗資本形成は同じ時期に３分の２に減少している。これらの低迷は明らかに、モンゴルの投資の主要部分を占めている FDI（海外直接投資）の減少によるものである。モンゴルへの FDI は 2013 年の 21 億ドルから、2014 年には５億ドルに低下している。この低下の主な原因は、頻繁な政権の交代によって生じた、不安定な政策環境によるものである。この状況は政府の信用を低下させ、海外投資家に不確実性を与えている。

2014 年の国家財政収支は、第３四半期の黒字にも関わらず、8,080 億トゥグルグの赤字であった。これは前年の 2.7 倍であった。財政収入は前年を 2.7％上回ったが、財政支出も前年を 14.1％上回った。財政収入の低下は経済活動の低迷により、法人所得税、国内の財・サービスに対する税、外国貿易に関する税の税収がそれぞれ低下したためである。2014 年の法人所得税は前年を 5.9％、国内の財・サービスに対する税は同じく３％、外国貿易に関する税は同じく 6.8％下回った。財政支出の増加は、主に経常支出、資本支出の増加によるものである。純貸し出しは前年を 46.5％下回った。財政赤字の大部分は政府債権の発行によって賄われた。借り入れに対する金利支払いは前年の 5.3 倍となった。2015 年１月の国家財政収支はさらに 130 億ドルの赤字となったが、大部分は政府の借り入れによって賄われた。

通貨及び金融

2014 年末の貨幣供給量（M2）は 10.6 兆トゥグルグで、前年同期を 13％上回った。ドル建てでは 53 億ドルとなった。これは過去５年間で最も低い伸びとなった。

2014 年末の融資残高は前年同期比 16％増で、2015 年１月末は同 10％増であった。2014 年末の不良債権比率は５％であったが、2015 年１月末には 5.4％に上昇した。

2015 年１月、モンゴル銀行（中央銀行）は、インフレを抑え、また自国通貨による取引を拡大させるため、政策金利を１ポイント上げ 13％とした。

（ERINA 調査研究部主任研究員　Sh. エンクバヤル）

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2014年1Q	2014年2Q	2014年3Q	2014年4Q	2015年1月
実質GDP成長率（対前年同期比：%）	6.4	17.5	12.6	11.7	7.8	7.5	3.8	9.7	9.9	-
鉱工業生産額（対前年同期比：%）	10.0	9.7	7.2	16.1	4.6	4.6	-	▲ 7.0	12.2	4.4
消費者物価上昇率（対前年同期比：%）	10.1	9.2	14.3	10.5	12.8	12.3	13.5	13.9	11.5	9.8
登録失業者（千人）	38.3	57.2	35.8	42.8	37.0	34.3	33.9	33.9	37.0	35.8
対ドル為替レート（トゥグルグ）	1,356	1,266	1,359	1,526	1,818	1,746	1,807	1,847	1,871	1,933
貨幣供給量（M2）の変化（対前年同期比:%）	63	37	19	24	13	36	26	19	13	3
融資残高の変化（対前年同期比：%）	23	73	24	54	16	54	43	24	16	10
不良債権比率（%）	11.5	5.8	4.2	5.0	5.0	5.0	4.6	4.7	5.0	5.4
貿易収支（百万USドル）	▲ 292	▲ 1,781	▲ 2,354	▲ 2,089	538	▲ 9	▲ 135	96	562	225
輸出（百万USドル）	2,909	4,818	4,385	4,269	5,775	987	1,494	1,541	1,753	473
輸入（百万USドル）	3,200	6,598	6,738	6,358	5,237	996	1,628	1,445	1,190	247
国家財政収支（十億トゥグルグ）	42	▲ 770	▲ 1,131	▲ 297	▲ 808	▲ 159	▲ 82	48	▲ 616	▲ 13
国内貨物輸送（%）	34.5	34.7	1.7	▲ 1.3	20.1	18.2	21.5	24.8	19.8	-
国内鉄道貨物輸送（%）	31	11	6.3	▲ 0.5	2.8	▲ 2.6	▲ 7.0	5.9	17.9	10.9
成畜死亡数（%）	495.5	▲ 93.7	▲ 34.1	84.8	▲ 63	▲ 64.0	▲ 46.0	▲ 4.3	-	▲ 18

（注）消費者物価上昇率、登録失業者数、貨幣供給量、融資残高、不良債権比率は期末値、為替レートは期中平均値。
（出所）モンゴル国家統計局『モンゴル統計年鑑』、『モンゴル統計月報』各号 ほか